

医科新聞 ～2026年1月号～

医療法人社団 慶実会
グレースデンタルメディカルクリニック埼玉分院
埼玉県川越市脇田本町29-1 トーア川越マンション1F
医師 佐伯 久美子

話題①：医原病をなくす

30年間の研究生活のあと、第2の人生として携わらせていただくことになった訪問診療も5年めに入った。この間に、薬の副作用や過剰使用によりADLの急激な低下を来して訪問診療が導入された例を少なからず経験してきた。研修医時代に医原病が疑われる症例を多く経験したこともあり、今でも薬の功罪については常に問題意識を持ちながら日々の診療にあたっている。外来通院は可能ではあってもフットワークが重くなりつつある状況では、患者さんやご家族と医療機関との繋がりは相対的に希薄になりがちである。このような状況ではきめ細やかな処方調整等がしにくくなり医原病リスクが高まる。訪問診療はこの問題の解決に向けてお役に立てる位置づけにあると考えている。ADLが明らかに低下してから訪問診療を導入するのではなく、ADLに変化が感じられたら早めの導入を検討いただけるような環境作りがますます大事になっていく。高齢者が生きがいを持って、その人らしい人生をしっかりと歩んでいただくために訪問診療が貢献できることはたくさんある。その人を知り、生きがいを一緒に考え、その実現に向けて体調と環境を整えるお手伝いをするのが訪問診療の醍醐味と考えているが、そのためには医師自らが生きがいを持って日々を力強く生きていくことが大事だと感じている。

話題②：生きがい

還暦をすぎてから人生のカウントダウンを念頭におくようになった。いつかはやろうではなく、今日その一步を踏み出すことを自らに宣言しながら日々を過ごすようになった。最初にカウントダウンを感じた時は哀しい思いもあった。こんなはずじゃなかったという後悔の念もあった。しかしそのような感傷に浸る時間もカウントダウンに入っていると思うと、行動を起こすこと、今できる一步を踏み出すことに気持ちが向くようになった。失敗は正せばいい、勘違いは修正すればいい、恥じることは何もない。1年前の自分の原稿を見て、宇宙に関して考えていたことは大幅な修正が必要だと解った。今、数学と物理を勉強しなおしている。まだまだできることがある。挑戦は永遠に続く。